

第25回マネジメントセミナー

「クラウド・コンピューティングがもたらす企業の情報革命」

～ ICT インフラは “所有” から “利用” へ ～

最近、クラウド・コンピューティングという言葉が盛んに新聞で見たり耳にするようになった。そこで、11月4日に、(株)富士通ビジネスシステム執行役員常務の水野太郎氏をお招きし、クラウド・コンピューティングについて、既に採用した事例などを交え最前線の実情をご講演戴いた。

クラウド・コンピューティングとは

従来は、それぞれの企業がリリースを含む自前のコンピューターを所有し、自社の業務に合わせて各々システムを構築してきた。しかし、クラウドでは、サービス会社が所有するコンピューターとソフトを使い、そこにデータも保管して、インターネットを介して利用する。インターネットの回線より向こうの仕組みがどうなっているのか分からず、分かる必要もないためにクラウド（雲）と呼ばれている。

クラウド・コンピューティングのメリット

所有するものはなくなり、ユーザーはサービス料を払うだけとなるので、大幅なコストダウンと



なる可能性があり、コンピューターの更新やシステム開発の煩雑さなどから解放される。

クラウドの利用事例

- 昨年春にメキシコで豚インフルエンザが発生し、日本でも大流行した。その際、全国約640ヶ所の保健所と自治体の罹患情報を管理し共有する仕組みを約1ヶ月で構築し運用を開始した。これまでの対応では約6ヶ月が必要と考えられる。
- 宮崎の口蹄疫発生時には、検討開始から10日間で農家、自治体、国などを結ぶ仕組みの運用を開始。